

次期保全マネジメントシステム(BIMMS)の開発概要

しみず こうじ
清水 侯二

(一財)建築保全センター 参事

1 はじめに

(一財)建築保全センターでは、建築物の保全、施設マネジメントを支援するため、平成16年に営繕積算システム等開発利用協議会のもとで地方公共団体等が利用可能な「保全情報システム」を構築し、平成26年には「保全マネジメントシステム」(以下「BIMMS」という)に改称して、バージョンアップ、サーバ更新などの改良を行ってきました。令和5年度末でシステム更改から10年を迎えますが、その間、情報通信技術におけるコンピュータの性能向上、ネットワークの高速化などの進展は目覚ましいものがあります。

そのため、次期 BIMMS を開発することとし、令和5年度にソフトウェア開発、システム基盤構築、データの移行を行い、令和6年4月から新システムの運用を開始する予定としております。今回は、次期 BIMMS の開発概要について紹介します。

2 システム環境

インターネットを介してサービスを提供する仕組みは従来と変わらないため、インターネットの利用環境があれば、どこでも利用することができます。

1) ソフトウェア開発

新たな施設管理用パッケージソフトをベースにカスタマイズにより開発を行います。

2) システム基盤構築

現行は ASP 方式で専用サーバによるシステムですが、SaaS 方式によるシステムになります。

SaaS 方式はクラウド事業者が提供するサーバなどを利用して、構築したアプリケーションとミドルウェアを導入して、利用者にサービスを提供するものです。次期システムでは以下のような構成を予定しています。

- ・クラウド事業者が提供する東京エリアにシステムを構築。
- ・システム領域内へは Firewall を経由することによりセキュリティを確保。
- ・Web サーバは負荷分散装置を設置し、冗長化により障害時の利用停止のリスクを最小限に抑えることが可能。
- ・災害等による東京エリアでの大規模障害時には、大阪エリアでバックアップデータを用いたシステム復旧が可能。

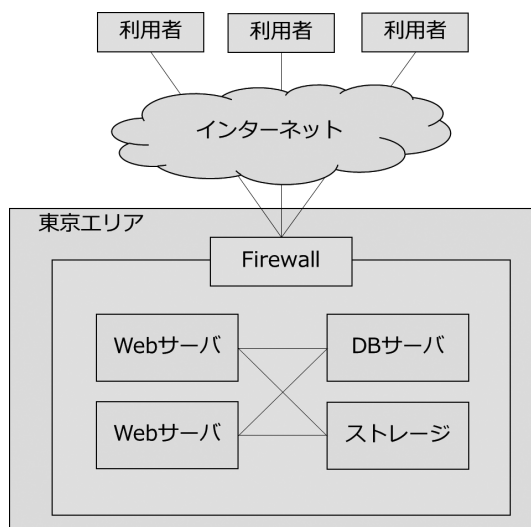


図1 SaaS方式によるシステム基盤の構成

3 利用環境

現行は Internet Explorer を標準としていますが、次期 BIMMS では利用できるブラウザを増やすなど、より利用しやすいシステム環境を提供します。

1) OS

- ・ Microsoft Windows 10/11
(Microsoft のサポート期間に準ずる)

2) ブラウザ

- ・ Microsoft Edge、Google Chrome、Mozilla Firefox

3) PC スペック

- ・ 推奨スペック
CPU : Core-i5 2.4GHz以上相当、メモリ : 16GB
- ・ 必要スペック
CPU : Core-i5 1.1GHz以上相当、メモリ : 8 GB

4 利用機能

利用可能な機能は、現行を基本として「基本情報管理」、「施設管理」、「エネルギー管理」、「保全計画管理」、「複数施設総合評価・分析」の五つに整理します。「エネルギー管理」は重要性、利便性を考慮して機能として一つ立てることにしました。利用機能についてはユーザー要望調査も踏まえた機能向上が図れるように現在検討中であり、次回以降詳しく紹介します。

5 おわりに

BIMMSは、総合管理計画における個別施設計画の作成や、公共施設マネジメントの支援ツールとしての活用を期待しています。現在の利用団体のほか、施設管理システムを検討されている地方公共団体、また独立行政法人等の公的機関も対象としておりますので、お気軽に以下 URL までお問い合わせ下さい。<https://www.bmmc.or.jp/system1/>

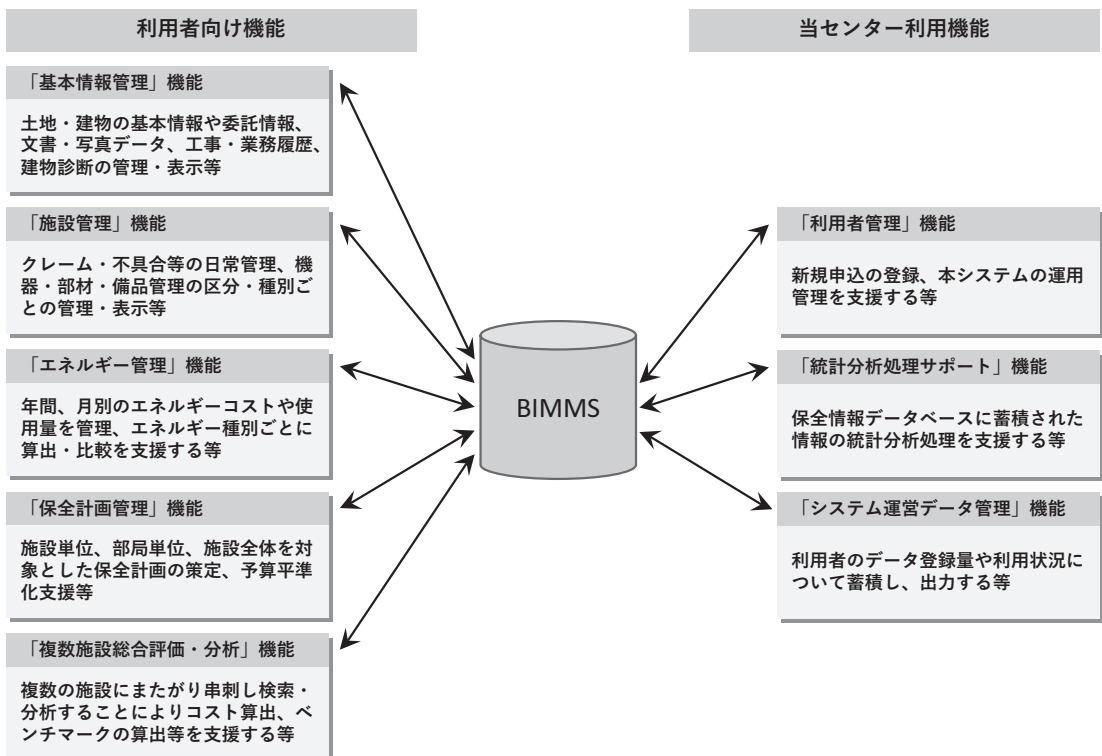


図2 次期 BIMMS の利用機能の構成